

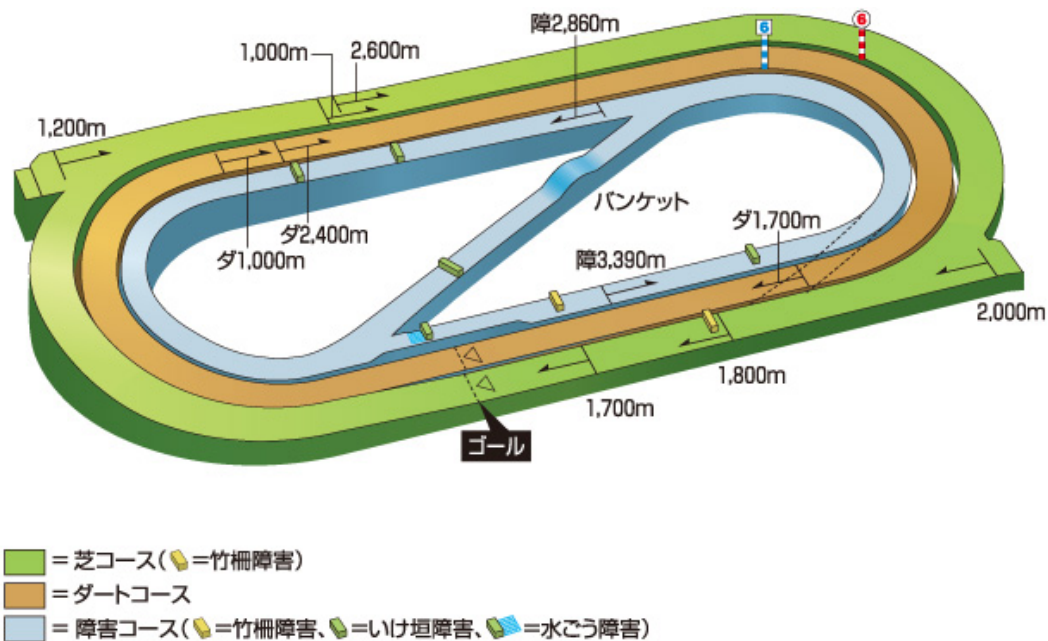


「小倉競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



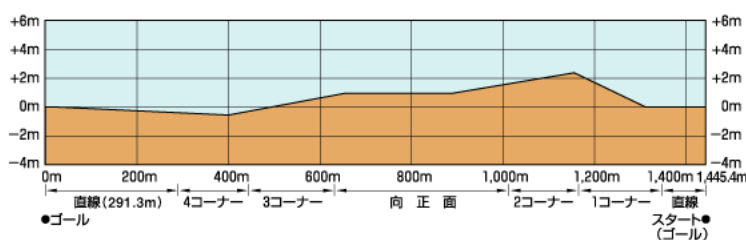
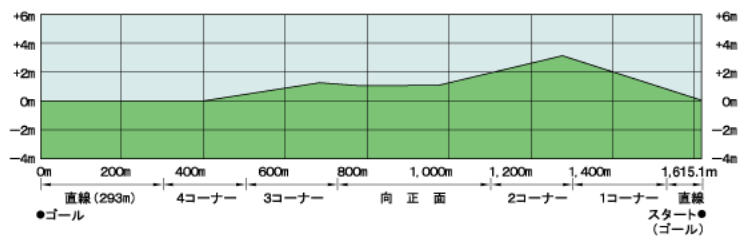
～小倉競馬場の特徴～



JRAの中では福島競馬場に次いで小さい競馬場。開催が行われるのは通常、1～2月、7～8月あたり。近年はエアレーション作業を始めてからなかなか馬場造園課も苦労していたようで、一時期は開幕週から差しが決まるような極端な馬場にも。それでもここ2、3年は馬場傾向もはっきりしてきており、今後しばらくは同じ傾向が続くと思います。

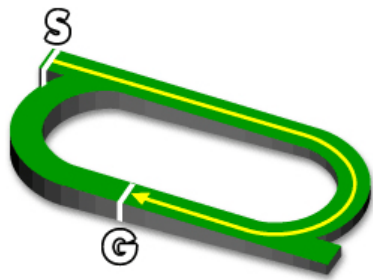
オール野芝の夏開催は当然として、オーバーシードの冬開催も開幕直後は凄まじい高速馬場になるのが近年の特徴で、CBC賞で2年連続で日本レコードを記録されたのを見ても、最近の小倉競馬場の高速馬場は尋常じゃないレベル。

芝レースの施行回数が多いために、開催中に雨の影響を受けると馬場の内側が傷み始めて外伸び馬場になる事が多々。超高速馬場の開催前半と外差し馬場の開催後半でまるで違うレース質になることもあるので、その辺りは注意したい。



小倉芝1200m

減速要素が全くない電撃スピード戦



スタート地点から3コーナーまで下り坂が続き、直線部分も平坦コースで減速要素が全くない1200m戦。テンから勢いがつきやすいため超ハイペースになるのが定番で、未勝利レベルで前半3F=33秒を切ることもある。開幕週なのか開催後半なのかにもよるが、前半3ハロン=32秒前半になるとさすがにハイペースという感じで脚を溜めていた差し馬が台頭してくる。

開幕直後は本当に前に行った馬しかどうしようもならないような反則レベルの馬場バイアスが発生しやすく、一方で開催後半はインを通ったらアウトという極端な外差し馬場になりやすい。開催の前半と後半でしっかり狙いを変えたほうがいいコースだろう。

とにかくスピードに特化した条件ということで、上級条件で走破時計が速くなるにつれて父サンデーサイレンス系が不利になってそれ以外のスピード血統が有利に。サクラバクシンオーを筆頭としたプリンスリーギフト系やダークエンジェル、アメリカンペイトリオットのような短距離向きノーザンダンサー系の活躍が目立つ。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
8	アメリカンペイトリオット	3- 6- 4- 16/ 29	10.3%	31.0%	44.8%	188	203
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
13	Dark Angel	3- 2- 2- 6/ 13	23.1%	38.5%	53.8%	94	180

とにかくテンスピードが問われる条件ということもあり、大型のスピードタイプの馬が優勢。こうして馬体重別の成績を見ても小型馬の不振が目立ちます。

馬体重	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
~399kg	0- 4- 3- 83/ 90	0.0%	4.4%	7.8%	0	29
400~419kg	8- 12- 16- 220/ 256	3.1%	7.8%	14.1%	51	84
420~439kg	21- 17- 33- 467/ 538	3.9%	7.1%	13.2%	80	62
440~459kg	47- 55- 50- 633/ 785	6.0%	13.0%	19.4%	51	74
460~479kg	48- 54- 54- 619/ 775	6.2%	13.2%	20.1%	86	90
480~499kg	49- 32- 27- 297/ 405	12.1%	20.0%	26.7%	75	86
500~519kg	13- 18- 12- 140/ 183	7.1%	16.9%	23.5%	57	84
520~539kg	10- 5- 2- 32/ 49	20.4%	30.6%	34.7%	175	88
540~	1- 0- 0- 2/ 3	33.3%	33.3%	33.3%	1140	323

※小倉芝1200mの馬体重別成績(2022年1月~)

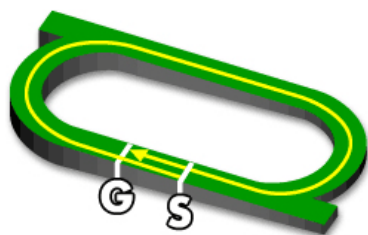
基本的には前有利で先行意識が強い騎手の成績が良い。そのイメージに合致する川田、坂井あたりの成績が優秀なのは当然だが、あまりにもハイペースになる事が多いために、じわっと構えて考えて乗ってくる騎手がハマることも良くある。

<まとめ>

- 減速要素が全くないためにデフォルトでハイペースになりやすい
- 開催前半は圧倒的に前有利、開催後半は外差し馬場と傾向がガラリと変わる
- スピード特化型条件なので上級戦になるほど父が非サンデーのスピードタイプが良い
- 馬体重が軽い馬が不利で大きい馬が走りやすい
- 前への意識が強い川田、坂井や、じわっと乗れる騎手がハマることも多い

小倉芝1800m

前半ゆったりからのロンスパ戦で捲りがハマりやすい舞台



スタートしてからすぐに1コーナーがあり、2コーナー地点は丘のようになっていてその部分でラップが緩んで息が入る。向こう正面から下り坂になって小回りで仕掛けが早くなるのが特徴で、大体は前半はじわっと緩んでからのロンスパ戦になりやすい。レースラップ全体としてロンスパ戦になることも多いが、捲る馬が出てきてその馬の影響で一気にペースアップすることも多々あります。

脚質上り	着別度数			勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値	
平地・逃げ	20-	9-	9-	94/ 132	15.2%	22.0%	28.8%	228	102
平地・先行	55-	59-	53-	269/ 436	12.6%	26.1%	38.3%	71	97
平地・中団	34-	45-	44-	476/ 599	5.7%	13.2%	20.5%	79	66
平地・後方	11-	7-	15-	440/ 473	2.3%	3.8%	7.0%	49	25
平地・マク	5-	5-	4-	9/ 23	21.7%	43.5%	60.9%	112	156

※小倉芝1800mの脚質別成績(2020年1月~)

途中で動きがある事が多いレースなので脚質的なバラつきはあんまりなし。特筆すべきは捲り戦法の複勝率が60%を超えていることで、これは全競馬場の中でも屈指に捲りが決まりやすいコースと言えそう。条件戦の小倉芝中距離戦は頭数が揃わない事が多いですし、高速馬場で前がやりあって前潰れで捲りがハマりやすい時も。もともと幅員が広いコースなので外を通過して一気に押し上げやすいというのもあるんでしょう。

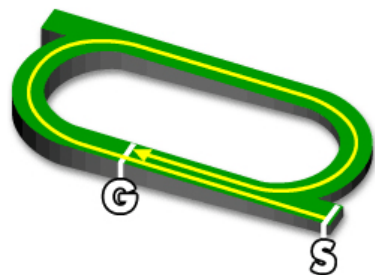
もう小倉コース全てに言える事ですが、川田騎手をこのコースで嫌うのは自殺行為。2020年からの複勝率は75%になりますし、もう川田はほぼ崩れないと覚えておいていいはず。先行意識が強い西村騎手や坂井騎手の成績も良くなっています。

<まとめ>

- 前半じわっと進んでのロンスパ戦になりやすい
- 道中で動きが出る事が多いので脚質的なバラつきは少ない
- 捲り戦法の複勝率が6割超えて屈指に捲りが決まりやすいコース
- 川田騎手の複勝率は75%、西村騎手や坂井騎手の成績も良い

小倉芝2000m

1コーナーまでの距離が長く、高速馬場開催ではハイペースになりやすい



小倉芝1800m から2000m 距離が伸びた分、1コーナーまでの距離が長くなっているのがこのコースの特徴。先行馬が少なければ1コーナーまでゆったりと入ってスローペースになることもあるが、開催前半の高速馬場になると1コーナーまでの先行争いが激しくなってハイペースになりやすい。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	18-	10-	9-	91/128	14.1%	21.9%	28.9%	163	103
平地・先行	53-	47-	51-	232/383	13.8%	26.1%	39.4%	83	95
平地・中団	28-	46-	39-	420/533	5.3%	13.9%	21.2%	57	74
平地・後方	5-	7-	11-	378/401	1.2%	3.0%	5.7%	10	30
平地・マク	12-	4-	5-	20/41	29.3%	39.0%	51.2%	474	210

※小倉芝2000mの脚質別成績(2020年1月~)

小倉芝1800mと同様に途中で動きがある事が多いコースなので脚質バリエーションは豊富。小倉芝1800mに比べると捲り戦法の複勝率は落ちていますが、それでも複勝率51%はあるので捲りが仕掛けやすい舞台。一気に捲るわけではなくても好位~中団ぐらいの位置からじわっと早めに仕掛ける競馬が決まりやすいコースで、だからこそ現役屈指の捲りファイターの横山和生騎手が好成績をあげられている舞台という感じか。川田騎手も当然好成績になっています。

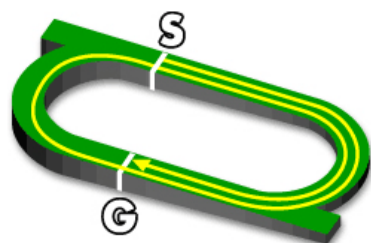
順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	藤岡康太	14- 8- 3-42/67	20.9%	32.8%	37.3%	120	78
2	丹内祐次	11- 7- 4-43/65	16.9%	27.7%	33.8%	144	92
3	幸英明	8- 2- 4-44/58	13.8%	17.2%	24.1%	93	51
4	藤岡佑介	6- 4- 2-15/27	22.2%	37.0%	44.4%	118	86
5	松山弘平	6- 3- 0-11/20	30.0%	45.0%	45.0%	84	67
6	西村淳也	5-14- 5-34/58	8.6%	32.8%	41.4%	102	150
7	鮫島克駿	5- 5- 5-19/34	14.7%	29.4%	44.1%	43	67
8	横山和生	4- 3- 2- 6/15	26.7%	46.7%	60.0%	122	147
9	川田将雅	4- 3- 1- 3/11	36.4%	63.6%	72.7%	133	102

<まとめ>

- 1800mよりも1コーナーまでの距離が長く、高速馬場ではハイペースになりやすい
- 道中で動きが出る事が多いので脚質的なバラつきは少ない
- 好位~中団からじわっと仕掛ける競馬が決まりやすい
- 横山和生騎手と川田騎手の成績が非常に優秀

小倉芝2600m

2周目の向こう正面からラスト1000m=59秒台のロンスパ戦



小倉競馬場の芝コース最長距離。コースを2回ほど周回する舞台なので前半～中盤部分で早いペースになることはないが、2周目の向こう正面から下り坂になって勢いがつきやすく、なおかつそもそも高速設定の馬場が多く速い上がりが出やすいのが特徴。他場の芝2600m戦と比べてもラスト1000mの時計が速くなりやすく、だいたいどのレースでもラスト1000m=59秒台になる事が多い。それだけ長距離戦で速い上がりが見える馬が有利なコースと言えるだろう。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値	単適回値
平地・逃げ	6- 5- 4- 28/ 43	14.0%	25.6%	34.9%	115	115	136.4
平地・先行	18- 20- 13- 51/102	17.6%	37.3%	50.0%	82	130	104.7
平地・中団	6- 4- 12- 98/120	5.0%	8.3%	18.3%	21	48	45.7
平地・後方	1- 1- 2-107/111	0.9%	1.8%	3.6%	10	7	16.7
平地・マク	4- 5- 4- 10/ 23	17.4%	39.1%	56.5%	173	182	119.1
3F 1位	20- 8- 6- 2/ 36	55.6%	77.8%	94.4%	333	208	269.3
3F 2位	10- 10- 6- 15/ 41	24.4%	48.8%	63.4%	169	165	138.9
3F 3位	3- 8- 13- 14/ 38	7.9%	28.9%	63.2%	22	169	44.0
3F ~5位	2- 8- 8- 48/ 66	3.0%	15.2%	27.3%	19	116	24.2
3F 6位~	0- 1- 2-213/216	0.0%	0.5%	1.4%	0	3	0.0

※小倉芝2600mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

長距離戦ということで道中で動きが出るので脚質のバリエーションは豊富。特筆すべきは上がり3ハロン1位の馬の複勝率が94.4%という部分。確かに長距離戦は上がり1位の馬の成績は優秀になりがちだが、それでもこの舞台は顕著。それだけラスト1000mを速く走れる馬が有利という事なんだろう。

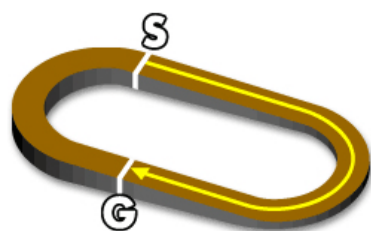
後半1000mが速く走れて長距離適性もあるという点でオルフェーヴル産駒、キングカメハメハ産駒の成績が優秀。どれも2020年からの複勝率が4割を超えていますし、単複回収率も優秀。

<まとめ>

- 前半～中盤は緩むがラスト1000mが速くなりやすい
- 後半1000mを速く走れるオルフェーヴル、キングカメハメハの成績が良い

小倉ダート1000m

どの馬が最もテンスピードが速いかを競う電撃スピード勝負



小倉競馬場でダート短距離戦といえばこの小倉ダート1000m。そもそもダート1000mという条件自体が超短距離戦で先手を奪った馬が圧倒的に有利な傾向。さらに小倉ダート1000mはスタート地点が下り坂で直線も平坦コースですから、よほど先行馬同士が競り合ったりしない限り前有利は間違いありません。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	37-	22-	13-	21/ 93	39.8%	63.4%	77.4%	281	207
平地・先行	44-	54-	49-	180/ 327	13.5%	30.0%	45.0%	121	150
平地・中団	12-	17-	27-	429/ 485	2.5%	6.0%	11.5%	35	57
平地・後方	0-	0-	5-	320/ 325	0.0%	0.0%	1.5%	0	7
平地・マク	0-	0-	0-	0/ 0					

※小倉ダート1000mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

もう当然のごとく逃げ馬の複勝率は77%。この条件で逃げる馬がわかればもう自動的にその馬を軸にしてもいいぐらいの成績です。しかも単複回収率はどちらも200%超えですから、よほどこのコースは逃げた馬の成績が優秀と言えるでしょう。そうなると先行馬の成績も当然優秀ですし、一方で後方待機馬の成績は本当に絶望的。もう2勝クラス戦ぐらいでよほどのハイペース戦になりでもしない限りは逃げ先行狙いに徹した方がいいコースでしょう。

先行特化型のスピードコースということで大型のスピードタイプの馬が有利な舞台。明らかに小型馬の成績が悪くなっているので、この点は注意したいところ。

馬体重	着別度数				勝率	連対率	複勝率
~399kg	0-	0-	0-	21/ 21	0.0%	0.0%	0.0%
400~419kg	1-	4-	2-	39/ 46	2.2%	10.9%	15.2%
420~439kg	8-	8-	10-	108/ 134	6.0%	11.9%	19.4%
440~459kg	14-	15-	18-	216/ 263	5.3%	11.0%	17.9%
460~479kg	18-	24-	24-	196/ 262	6.9%	16.0%	25.2%
480~499kg	23-	20-	18-	182/ 243	9.5%	17.7%	25.1%
500~519kg	15-	7-	8-	85/ 115	13.0%	19.1%	26.1%
520~539kg	3-	1-	4-	20/ 28	10.7%	14.3%	28.6%
540~	1-	4-	0-	3/ 8	12.5%	62.5%	62.5%

※小倉ダート1000mの馬体重別成績(2022年1月~)

好走データを見ると角田厩舎や白井牧場生産馬、ミッキーアイル産駒、ザファクター産駒あたりが非常に良い成績になっています。

順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
2	(栗)角田晃一	4- 9- 0- 8/21	19.0%	61.9%	61.9%	74	129

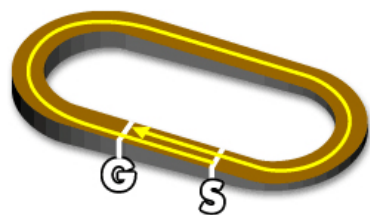
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ミッキーアイル	6- 4- 2-16/28	21.4%	35.7%	42.9%	476	114

<まとめ>

- ダート1000mという条件自体が圧倒的に逃げ先行馬が有利
- 逃げ馬の複勝率は77%で単複ともに回収値が非常に優秀
- 後方待機馬の成績は本当に絶望的
- 馬体重が大きいほど有利で419キロ以下は厳しい
- 角田厩舎、白井牧場生産馬、ミッキーアイル産駒、ザファクター産駒の成績が優秀

小倉ダート1700m

向こう正面でラップが緩みやすく持続力が問われるダート戦



ダート1700mはローカル競馬場に4つあるが、細かいディテールを抜きにすれば札幌競馬場以外はだいたい同じと考えて良さそう。札幌ダート1700mだけは少し傾向が異なるのでその点だけ注意してください。

小倉ダート1700mはスタートしてから1コーナーまで先行争いが激しくなるも、2コーナー部分が丘になっているので序盤で一旦ラップが緩みます。ただ、向こう正面からは下り坂になるので中盤部分は緩む事がなく、結果的に後続の馬もなし崩しに足を使わされてそのまま前残りが目立つ傾向。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	48- 27- 18- 133/ 226	21.2%	33.2%	41.2%	171	121
平地・先行	107- 116- 100- 344/ 667	16.0%	33.4%	48.4%	163	152
平地・中団	38- 49- 66- 928/1081	3.5%	8.0%	14.2%	50	70
平地・後方	3- 4- 11- 888/ 906	0.3%	0.8%	2.0%	3	11
平地・マク	8- 9- 8- 28/ 53	15.1%	32.1%	47.2%	195	135

※小倉ダート1700mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

だいたいこの脚質別のデータも函館、福島ダート1700mとあんまり変わりなし。逃げ馬、先行馬、捲り馬の期待値がどれも同じくらいなのでそれぞれのレースの展開がどうなるかを柔軟に考えたいです。

小倉競馬場を主戦場にしていて持ち前の先行力を存分に活かせる条件ということで川田騎手の成績が圧倒的。複勝率は65%になりますし、逆らわない方がいい。それ以外では浜中騎手や田中克典厩舎の成績が非常に優秀。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
7	浜中俊	7- 2- 2- 7/18	38.9%	50.0%	61.1%	274	148
順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
2	(栗)田中克典	5- 3- 3- 9/20	25.0%	40.0%	55.0%	179	217

<まとめ>

- 函館、福島、小倉ダート1700mはどれもほぼ同じ
- 逃げ馬、先行馬、捲り馬の期待値はどれも同じくらい
- 川田騎手は複勝率65%で非常に得意、それ以外は浜中騎手や田中克典厩舎